

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500548		
法人名	有限会社ウェルハート		
事業所名	グループホーム幸生園		
所在地	福岡県宮若市龍徳1488番地		
自己評価作成日	平成31年1月12日	評価結果確定日	平成31年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成31年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流も活発（地域小学校・幼稚園との年3回の交流会）になり、入居者への個別対応もボランティアの協力により継続できている。レクリエーションや行事、外出活動なども積極的に行っている。入居者にはそれぞれ役割分担もあり、認知症グループホームに必要とされるケアが実践できており、同業者からも評価をしてもらえるようになった。過去に2例の看取り実績もあり重度化への対応も訪問看護ステーションとの医療連携体制により条件が整えば可能である。一方で、最近では若年性認知症の入居者も増えており、これまでとは違ったケアも必要とされるため、更なる知識・技術の向上が課題である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、交流している小学校から運動会や大鍋会の招待が継続し、近隣に民家が増える中、餅つき大会のお餅を近所の家々におすそ分けしたり、近隣から漬物が届くなど地域との交流が深まっている。運営推進会議は新区長の参加や新しく家族代表も決まり、日程の選択肢を設けた案内で参加をお願いし、同日に身体拘束適正化委員会を開催しているが、運営推進会議の委員である区長から、徘徊にも協力すると心強い提言を受けている。美容師の経験を活かし生き生きと他の入居者の入浴後の髪の手入れをされる入居者や毎週1回ボランティアと囲碁、将棋を楽しんでいる入居者もあり、また公共図書館の利用、生花教室、畑の手伝い等を支援し、「明るく 優しく 元氣よく」との理念を具現化するために、多様な勤務体制の職員と気づきや情報を共有しながら、若年の入居者の個別ケアにも取り組んでいる。今後も認知症や認知症ケアの啓発や地域と連携した避難体制づくりで、地域包括ケアが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **もみじ棟／グループホーム幸生園**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく、優しく、元気よく」の理念の下、ここに来て良かったと本人も家族も思えるケアの実践に努めている。	本人の思いに沿った個別ケアに努め、職員は入居者への物腰柔らかな声かけや、起床時に背中をそっとさすったりすることが、リビングに大きく掲げられた理念の優しさではないかと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校、幼稚園との交流会や運営推進会議への区長、民生委員の参加により地域とのつながりや情報提供を行っている。	近隣に若い世代の住居が増える中、餅つき大会のお餅を近所の家々におすそ分けしたり、近隣から漬物が届いたり、地域のホームへの理解が進みつつある。長年、交流している小学校からは運動会や大鍋会の招待が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域小学校からの要請で交流会をしている3年生向けに認知症の理解や支援方法を教える場を設けている。(年1回)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の様子やレクリエーション・行事等の参加の様子をDVDにして参加者に視聴してもらうことで、入居者の様子をより知ってもらうことができた。	新区長の参加や新しく家族代表も決まり、日程の選択肢を設けた案内で、出席を得られるように工夫している。行事や暮らしぶりをまとめたDVDの報告が好評で、職員の問題意識の啓発に繋がりたいと、ヒヤリハット事例を細やかに報告し、議事録を玄関に公開している。	運営推進会議に関心を持っていただくために、ファミリーだよりで会議の報告を行うなど、さらなる会議の周知や活用をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加しており、園の運営等について理解をしてもらっている。	市職員に市内同業者協議会主催の研修会の講師やボランティアの紹介をお願いしている。管理者は事業所の運営に関する相談をしたり、日頃から情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の基本方針を整備し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営推進会議の開催日に身体拘束適正化委員会を開催している。運営推進会議の委員である区長から、徘徊にも協力すると心強い提言を受けている。センサーの設置や見守りで対応しているが、外に出て行かれた入居者が近隣の方の協力で、無事に帰園されたこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	家族の面会も頻度が多く、外部からも医師、看護師、ボランティア、取引業者等の来訪もあり、虐待が見過ごされることのないような環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の福祉事務所に、今後対応が必要になる可能性がある入居者の相談をしており、制度利用について理解が必要になっている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を整備している。現在、地域包括支援センターに成年後見制度の活用を相談し、話し合いをしている。	今後も、多様な家族構成や単身世帯の増加に伴い、職員に向けて権利擁護の研修や情報の共有を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結にあたっては、必ず施設見学を行って頂き、十分に時間をかけて説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けて、家族の意見や要望をお願いしている。	餅つき大会や誕生日会等に家族の参加を呼びかけ、訪問時に意見交換している。毎月の利用料はホームに持参していただき、話し合いの機会を持つようにしている。個別のリハビリの要望等には、できるだけ応えるよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から季節に応じた手作りのおやつを提供したいといった提案も多く、それを反映させることで入居者も喜び、職員もやりがいを感じている。	派遣や非常勤、夜勤専門など多様な勤務形態の職員がいるが、ミーティングは屋間に実施し、ヒヤリハットを積極的に提起するように職員に呼びかけている。ユニット毎の話し合いの内容を書面にまとめ、全職員に回覧している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を行っており、自己の仕事への取り組み方等を振り返る機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては書類選考のみによる採否はしておらず、面接をしたうえで決定している。	常勤職員だけでなく、時間や雇用先が異なるなど多様な形態で働く職員がいるが、残業なし、月8回の休暇を確保している。高校生の介護実習を受け入れているが、介護職に就くまでに至っていない。希望する研修に参加するために希望休を活用して、自己啓発に努める職員もいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域小学校への認知症啓発活動の機会を得ており、年1回活動している。	管理者が行政主催の人権研修に参加して、伝達研修を行っている。管理者が小学校で認知症高齢者に対する支援方法を講話している。入居者に対する言葉使い等で気になる時には、職員同士で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	慢性的な職員不足により、法人内外での研修機会の確保が難しくなっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわかというネットワークがあるが、慢性的な職員不足により、毎回参加することは困難な状況。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の職歴や生活歴なども考慮し、得意なことや好きなものをヒアリングし本人との関係作りに生かしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は施設に対して、本人がとる行動を「迷惑をかける」という思いが強い。まずは、その心配を取り除くよう話を重ねて関係作りをはじめている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には本人と家族からしっかり話を聞くことに努めると共に、家族の情報だけでなく実際に自分たちの目で見たと評価も大事にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に適した役割を準備し、それを終えた後に「ありがとう」の感謝を伝えることで、必要とされている喜びを感じてもらおうよう心がけて支援をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊時に怪我をするケースが多い入居者の家族に対し、自宅での介助方法をアドバイスしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の外泊を継続したいという希望を支援するため、車椅子の利用方法を改善したり、歩行器で練習したり支援に努めている。	ADLの低下で家族との外出や外泊が困難になりつつある入居者の家族に、安全に配慮した介助の方法を講習している。家族や知人とのつながりを維持したいとの入居者の思いを理解して、携帯電話の使用や通販のトラブル解決を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の介助の際も可能な範囲で出来る入居者に手伝ってもらったりすることで助け合いの意識が生まれている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に他施設に転居されても時々面会に訪れたり、死亡退居された入居者の初盆には欠かさず挨拶に出向いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	囲碁・将棋を楽しみたい入居者のために多方面に相談しボランティアを紹介してもらい、週1回来訪してもらっている。	毎週1回、来所したボランティアと囲碁、将棋を楽しんでいる入居者や、公共図書館の利用、生花教室、畑の手伝い等、一人ひとりの意向を把握しながら、趣味が継続されるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族には気軽に来訪して頂けるようにしており、来訪の都度現状報告や情報収集に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や申し送りによって現状把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	複数の職員の目によるアセスメントを活用し課題を見つけ、ケアの方向性が統一されるよう計画を作っている。	個々の能力を活かす介護計画が作成され、職員の気づきや情報の共有で計画の見直しや変更をしている。全職員が気づきや意見を出しやすいように、介護記録の表紙に計画表を貼っている。美容師をされていた入居者は、生き生きと他の入居者の入浴後にドライヤーや髪の毛のブローをされている。	ミーティングの開催方法などの工夫で、多様な勤務体制ならではの気づきや情報の共有を生かしたチームケアを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、健康記録表、食事・服薬・水分管理表、排尿チェック表により日々の状態を確認し活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の融通や外出・外泊時の急な予定変更、指定の医療機関受診の対応など柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用を希望する入居者に支援を継続している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診により健康状態の把握に努めている。	入居前のかかりつけ医受診に同行できない家族が多く、協力医療機関による訪問診療を支援している。毎週1回の訪問看護と月に2回の訪問診療によりストーマ造設の入居者も適切なケアが受けられている。24時間対応で体調変化に対応している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携体制をとっており、週1回の訪問による健康管理と24時間連絡可能な体制により支援を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大腿骨頸部骨折で入院し手術摘要となったが、入院中の状態の情報提供により早期退院が望ましかったため、医療機関及び当GHが連携している訪問看護ステーションとの連携により17日で退院受入を行った。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去2例の看取りの経験を踏まえ方針を共有している。	現在までに、2名の看取りを行っている。本人や家族の希望、主治医の意見や対応、訪問看護との連携等、事業所のできることを見極めながら、関係者で話し合い、看取り介護計画書を作成し、同意を得て取り組んでいる。職員は家族の感謝の声に支えられ、最後まで支援できたとの達成感があると話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応には訪問看護ステーションとの連携体制により、看護師の指示を受けながら対応し、必要な時は看護師の訪問ができるようになっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。	避難訓練後は課題を話し合い、改善に繋がっている。昨年夏の大雨は、小学校が避難場所として適切かを考える機会となり、また周りが山で危険区域が近いいため災害時の避難について、地域と連携していく予定である。	災害時の協力のお願いや地域の高齢者の受け入れ等、地域との協力体制の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他入居者の居室に入ってしまう入居者には否定の言葉を使わない対応を心がけている。	入居者は苗字で呼びかけているが、不穏時や反応が乏しい時には旧姓で呼ばれる方もいる。言葉が出にくい入居者にも了解を得て対応することや、身体を優しくさすって介助することで笑顔が出ると職員は理解している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間で誘導する対応の入居者にも必ず声かけを行い、本人の意思確認をするように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の声かけに理解を示さない入居者は時間をおいて一人だけでも食事が摂れるよう対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容の他、希望者にはパーマやカラーなど訪問美容も利用し、身だしなみやおしゃれを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやお盆拭きなど、入居者毎に役割を準備し、手伝ってもらうことで役にたっているという喜びを提供している。	ホームの畑で採れた大根やトマト、キュウリ等の新鮮な野菜が食卓にのぼり、敬老会や誕生会、庭でお花見の食事等、季節ごとのメニューが食欲を誘っている。嚥下の状況に合わせて提供された食事を、職員に支援されながら完食される入居者や、下げ膳や食器洗いを日課にする入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・服薬・水分確認表を活用し、水分量を管理している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの手順や使用する用品など、家族の要望に応じたケアを実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位が困難な入居者もトイレ誘導を行い、便座に座って排泄ができるよう支援している。	車椅子で自分でトイレに入る入居者には、できない事だけを支援するなど、個々の能力に合わせた対応を行っている。誘導してトイレで排泄することで「トイレ」と声が出るようになったり、声掛けによって失敗が少なくなった入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトの訪問販売を利用し、便秘対策を実施している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	シャワー浴が中心の入居者も2名介助等工夫をし、浴槽に浸かって入浴の気持ち良さを感じてもらえる支援をしている。	週2回を目途に入浴を支援している。入浴を億劫がる方には時間を置いて声掛けをしたり、若年層の入居者には、同性職員がゆったりと楽しめるように介助している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子利用時間の長い入居者は午後からベッドで90分程度安静臥床するなど休息が取れる環境作りを支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専属の薬剤師が週1回訪問し、内服管理を行っている。主治医との連携体制により処方内容について都度改善している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元美容師の入居者には入浴後のブローを役割として手伝ってもらっている。月1回開催の生花教室や年3回の地域の小学生や幼稚園との交流会も入居者の楽しみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域交流している小学校の行事などに参加するなど、可能な範囲内で外出支援を行っている。 ※平成30年の外出実績は10箇所	季節のお花見や小学校の行事に出かけたり、個別に直方商店街の古本市に出かけたり、図書館で本を借りる支援をしている。家族と出かけたり自宅に外泊される入居者や、ホームの広い庭で日常的に散歩を楽しむ入居者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金という形で事務所にて個人毎の自由に使えるお金を管理しており、要望に応じて使えるようルールを作っている。個人での所持は許可していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙創作が得意な入居者に、自身の主治医や囲碁・将棋の相手をしてくれるボランティアに年賀状作成を支援した。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時にはTVを消して音楽を流し、落ち着いた気分で食事に集中できるような環境作りに配慮している。	2つのユニットが中廊下をはさんで左右対象に配置されている。以前、大型の浴槽が設置されていた部屋は多目的ホールとして活用されている。広い窓からは田園風景の景色が広がり、温度や明るさ、空調に配慮されたリビングでソファやテーブルに座り、穏やかに過ごす入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、気の合う入居者同士が肩を寄せて過ごせる環境や座席配置も入居者の関係性を配慮して工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	平成30年は全居室のエアコンの内部洗浄を専門業者に依頼し実施した。	自分の気に入ったベッドや寝具を持ち込んだり、机や椅子等の家具を揃えたり、一人ひとりの暮らしが伺える居室に、水仙の良い香りが漂っている。担当の職員と一緒にこれまでの生活の継続が出来る環境を整えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がすぐに見つけられるよう扉だけでなく、廊下からも確認できるように掲示方法を工夫した。		